

Ⅰ. 日本の気候の特色

- (1) 2月の北海道と沖縄県の気候の特色や人々の様子について、資料Ⅰと資料Ⅱの写真から読み取れることをそれぞれまとめてみよう。

資料Ⅰ 2月の北海道



資料Ⅱ 2月の沖縄県



(例) 寒さの厳しい北海道の2月は雪が積もっていて、さっぽろ雪まつりの会場で、子どもたちが防寒着を身につけて、カーリングをして遊んでいる。

(例) 冬でも温暖な沖縄では、2月には桜が満開となり、人々が花見を楽しめる。

- (2) 2月の北海道（札幌市）の気候が、沖縄県（那覇市）の気候と大きく異なる理由を挙げてみよう。

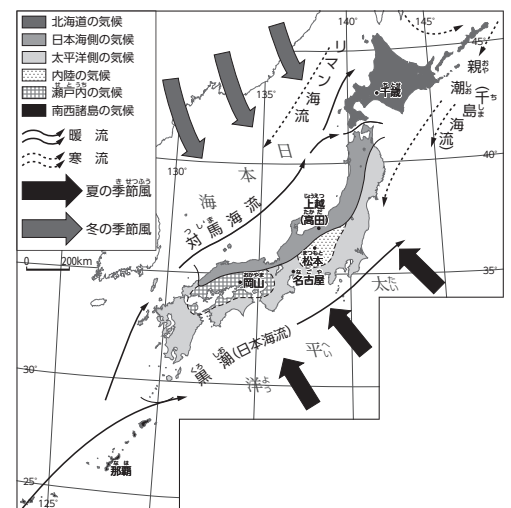
(例) 札幌は那覇よりも緯度が高い場所に位置しているため。

- (3) 北海道と沖縄県の気候の違いのほか、日本の気候の地域的な違いについて、資料Ⅲから読み取れることを挙げてみよう。

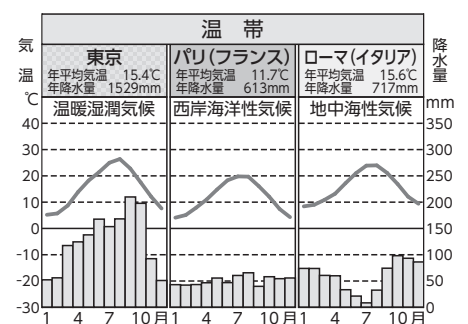
(例)

- ・ 本州では太平洋側と日本海側で気候の違いがみられる。
- ・ 中部地方では、太平洋側と日本海側に挟まれた松本市周辺では内陸の気候が分布している。

資料Ⅲ 日本の気候区分



資料Ⅳ 世界の温帯の雨温図



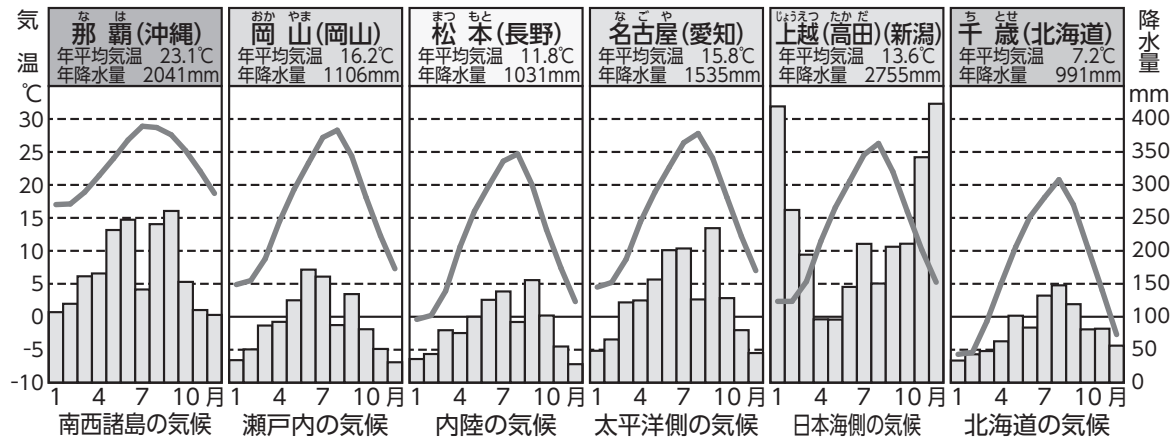
- (4) 資料Ⅳから世界の温帯の地域と比べ、東京の気候の特色を挙げ、そのような特色がある理由を説明してみよう。

東京の気候の特色	理由
(例) 夏と冬の気温の差が大きく、年間の降水量が多い。	(例) 梅雨前線や台風の影響で夏から秋の降水量が多いほか、季節風の影響で夏は暑い南風、冬は寒い北風が吹くため、夏と冬の気温の差が大きくなる。

2. 日本の気候区分

資料Ⅴを見て、日本の各地の気候の特色を気温と降水量に注目して説明してみよう。

資料Ⅴ 各地の雨温図



那覇 (沖縄県)	岡山 (岡山県)	松本 (長野県)
南西諸島の気候	瀬戸内の気候	内陸の気候
(例) ・一年中雨が多く、梅雨と台風の時期に降水量が多い。 ・黒潮の影響を受けて冬でも温暖。	(例) ・冬と夏の両方とも季節風が山地にさえぎられるため、一年中温暖で降水量が少ない。	(例) ・一年を通じて降水量が少ない。 ・夏と冬の気温の差が大きい。

名古屋 (愛知県)	上越 (新潟県)	千歳 (北海道)
太平洋側の気候	日本海側の気候	北海道の気候
(例) ・季節風の影響で冬は晴天の日が多く、夏は雨が多い。	(例) ・北西の季節風の影響で冬に雪や雨が多い。	(例) ・冷涼で特に冬の寒さが厳しい。 ・はっきりとした梅雨はなく、1年を通して降水量が少ない。

本時のまとめ

◆ 太平洋側と日本海側とで降水量の多い季節が異なる理由を、山地と季節風の向きに着目して説明しよう。

(例) 夏は太平洋からの季節風が山地にぶつかるため太平洋側の降水量が多くなり、冬は大陸からの季節風が山地にぶつかるため、日本海側の降水量が多くなる。